

SFH型ホルダー取扱説明書

このホルダーは、逆流防止機能を有しており、主に高炉・電炉等の炉設備のある場所で使用されています。通常使用されるランス棒は、SL3-11・SL3-18タイプ(径17.3mm)、SL4-13(21.7mm)、SL5-18(27.2mm)になります。ヘッドやボディの形状は種々ありますが、ホルダーとしての基本的機能はなんら変わりません。使用されているバルブは、ボール式とグローブ式とがあります。用途に応じてご使用ください。

【準備するもの】

- ・ 酸素
- ・ 酸素ホース
- ・ ガス切断器(着火時に使用)
- ・ 酸素調整器(10A以上のランスを使用する場合は、40Nm³/h以上の高流量用調整器を使用してください)
- ・ ランス(溶断棒)
- ・ ホルダーおよびランスに適応するホルダー付属部品(パッキン、カラー等)
- ・ 作業用革手(軍手は使用しないでください)
- ・ 耐熱作業衣か綿製の厚地作業服

【作業前の点検】

まず、ホルダー内に筒状のゴムパッキン、及びカラーが所定通り納まっている事を確認すると同時に(ホルダー分解図を参照してください)、逆止弁装置が、正常にセットされていることも確認してください。(弁が正常に作動している場合は、ホルダーを振ると、弁が動く際の金属音がします。音がしない場合は、弁がないか、正常にセットされていませんので、そのままの状態で使用しないで、必ず取り出して点検してください。カラーが無かったり、パッキンが傷んでいると酸素漏れを生じ、事故の原因となりますのでご注意ください。パッキンは、目視に於いて、ひび割れや傷・変形、および長期間の放置状態における硬化などが確認された場合は、速やかに交換をお願い致します。通常使用時では、ランス300本の使用、もしくは使用後1年を目安に新しいものとお取替えください。

【取り付け手順】

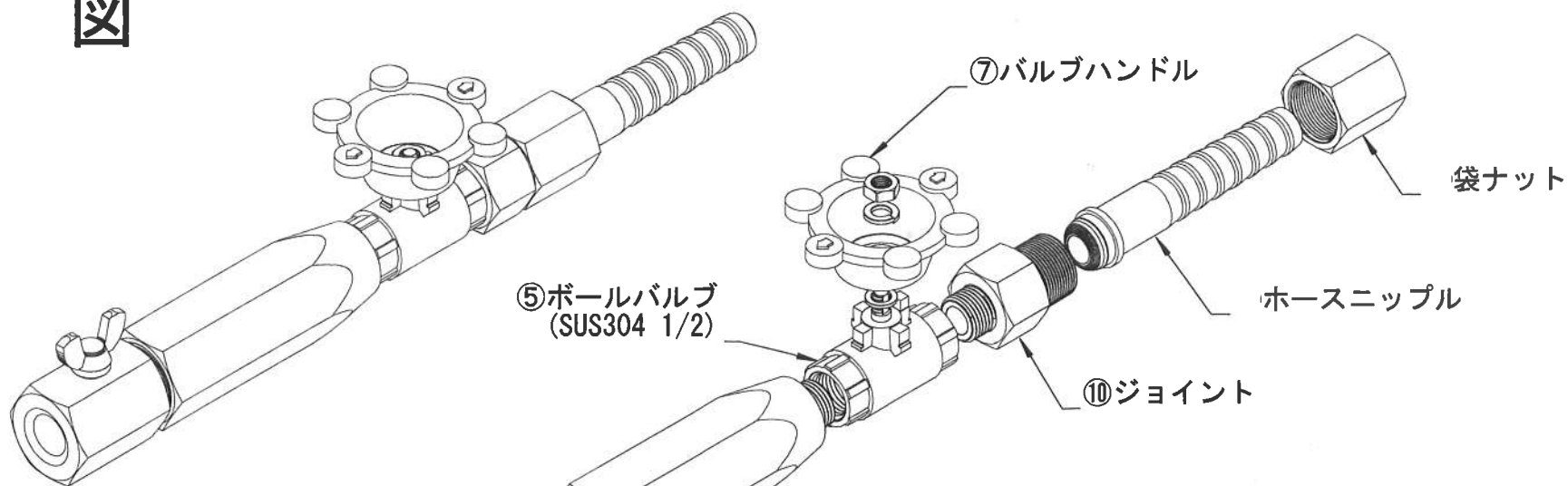
1. 酸素ホースをホルダーに取り付けます。
2. 次に、ヘッドをゆるめてランスをホルダーの奥に突き当たるまで差し込み、ヘッドを回して固く締め込みます。ヘッドを締め込む事で、ホルダー内のゴムパッキンがランスを包み込んで酸素の漏洩を防ぐと共に、ランスを固定します。ヘッドの締め込みが足りないと使用中にランスが飛び出すことがありますので、飛び出し防止のための押しネジが付いたヘッドをご使用ください。

【着火方法】

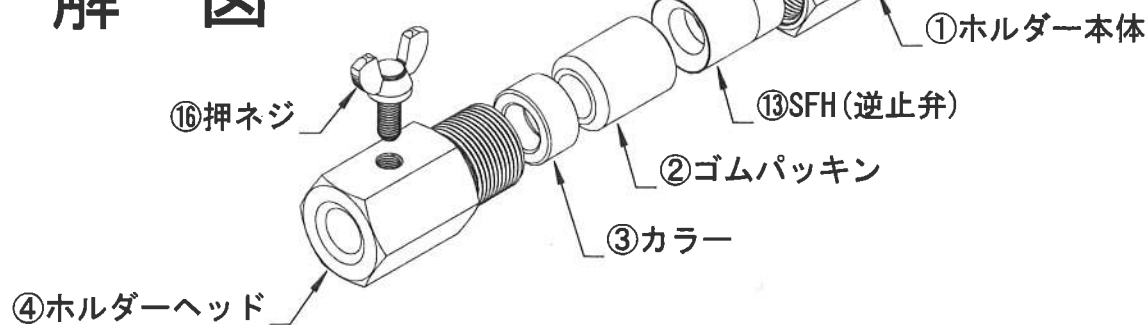
1. ホルダーのハンドルを少し回し、ランス先端から微量の酸素を噴出させながらガス切断器でランス先端を溶かして着火する方法が一般的ですが、ランス着火専用の使い捨て着火器もあります。ただし、ガスバーナー等であぶる程度では着火しません。
2. 着火したら、棒を母材近くに持っていき、ハンドルを全開し、溶断・穿孔作業を開始します。作業状態に応じて、酸素噴出量を加減してください。作業を一時中断したり、溶断・穿孔場所を変える場合は、ランスの火が消えない程度に酸素量を調整してください。(着火時と同様の微量の酸素噴出量に絞ります。) こうすることで、ランスと酸素の不必要な消耗を防ぐことが出来るうえ、再着火しないですぐに作業にかかれます。

弊社製造のホルダーを改造して使用し、万一事故にあわれた場合の保証は負いかねますのでご了承願います。

組立図



分解図



※部品②③④⑬は、ランスのサイズに合った物をご使用ください。

※SFHは、逆止弁装置付ホルダーを示します。

使用ランス	SL3-11・SL3-18	受注先	
SL8-6・SL8-6X・SL2-6・SC2-6BX		図番	STD-016
SC2-6B・SC1-5		型式	SFH LT10A
		製図	阿部 02.4.26
酸素アーク工業株式会社			